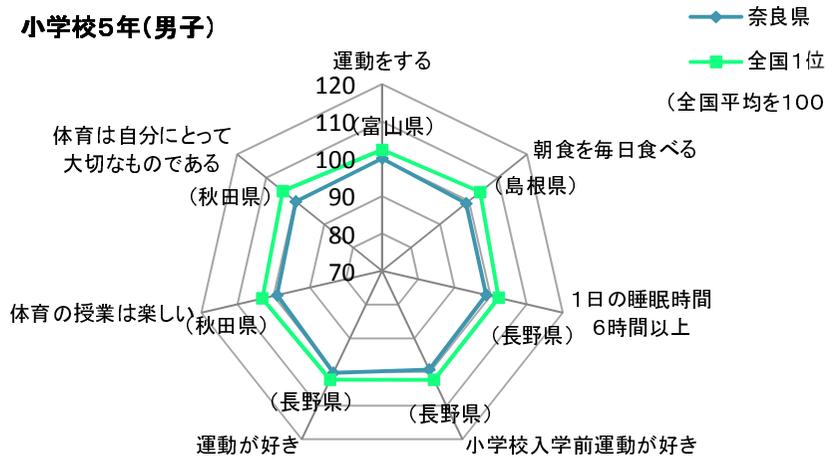


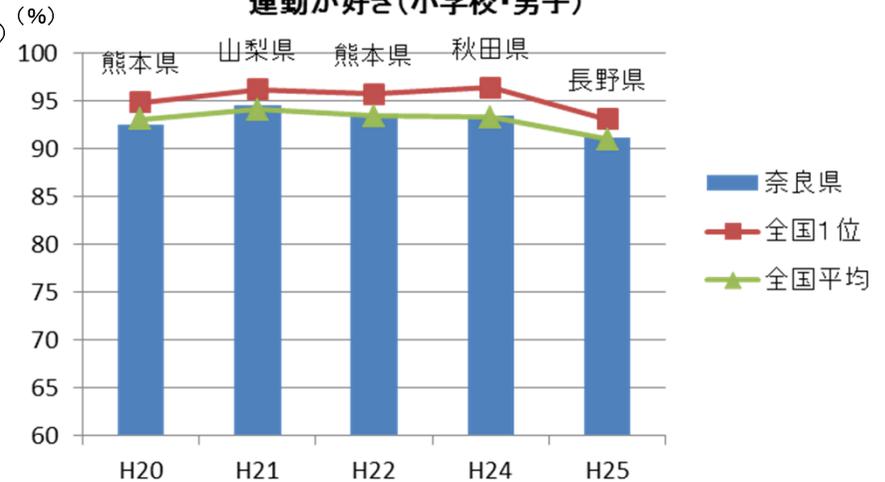
### 3-6 運動習慣等(小学生)

・「運動が好き」と答えた児童の割合は、おおむね全国平均レベルを推移しているが、全国1位とは開きがある。

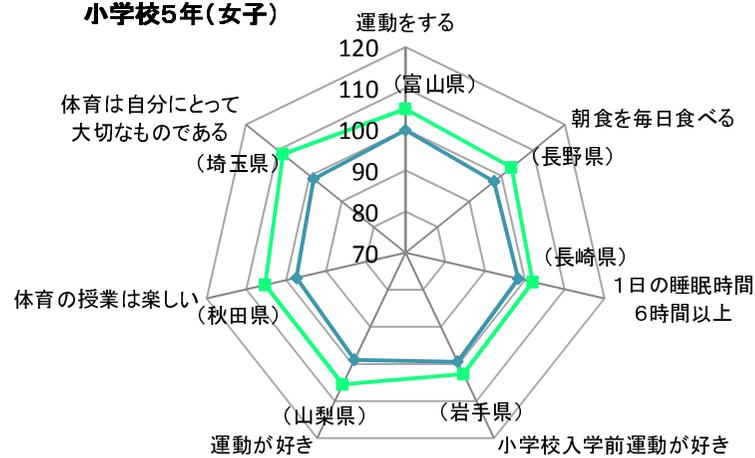
小学校5年(男子)



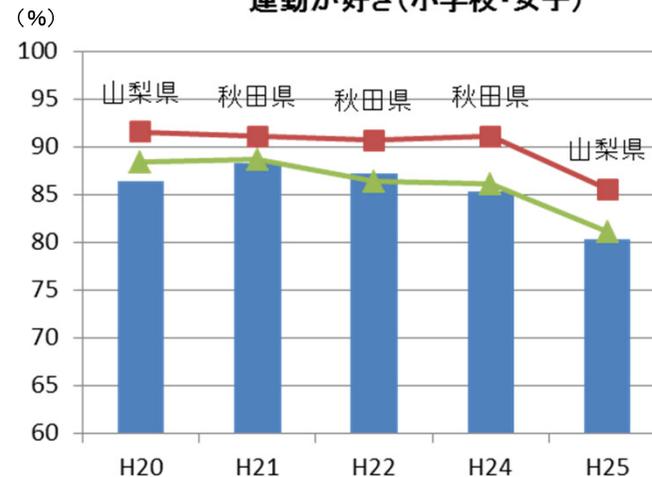
運動が好き(小学校・男子)



小学校5年(女子)



運動が好き(小学校・女子)

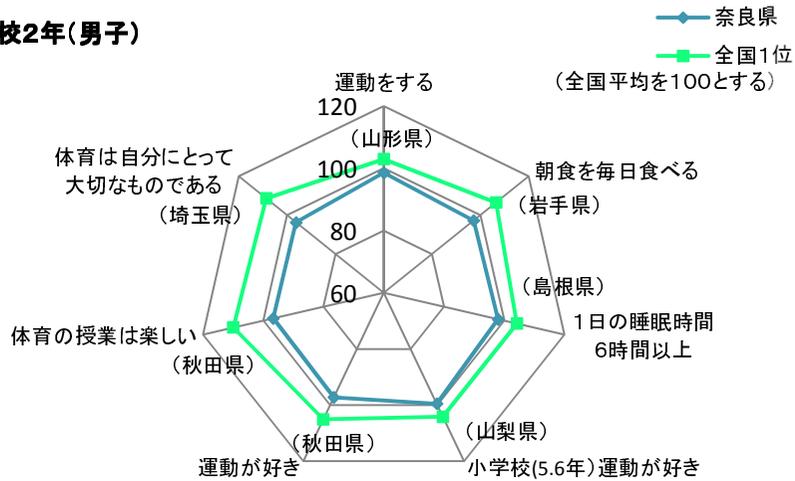


出典: 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)

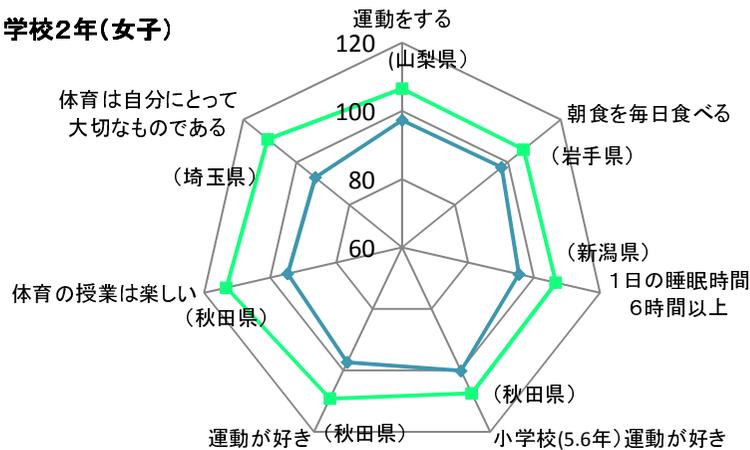
### 3-7 運動習慣等(中学生)

「運動が好き」と答えた生徒の割合をはじめ、全ての項目において奈良県は全国平均以下であり、全国1位を大きく下回る結果になっている。その中でも「体育の授業は楽しい」「体育は自分にとって大切なもの」などの開きは大きく、運動への意欲に課題がみられる。

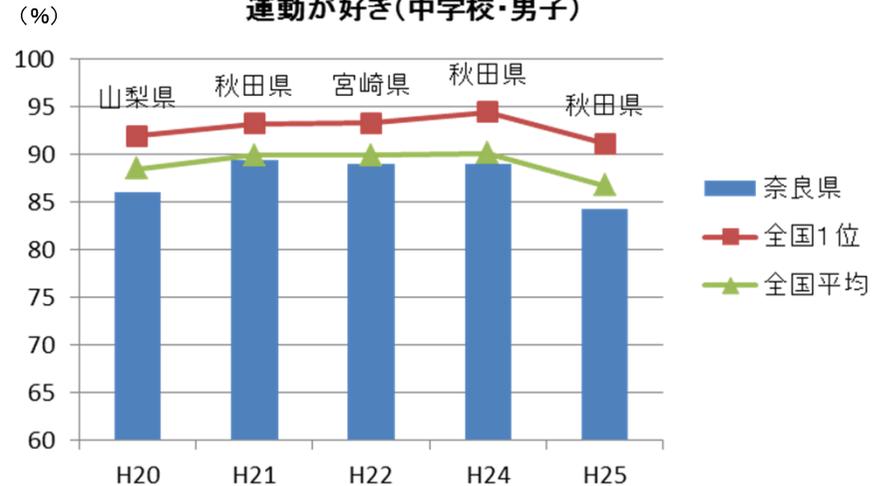
中学校2年(男子)



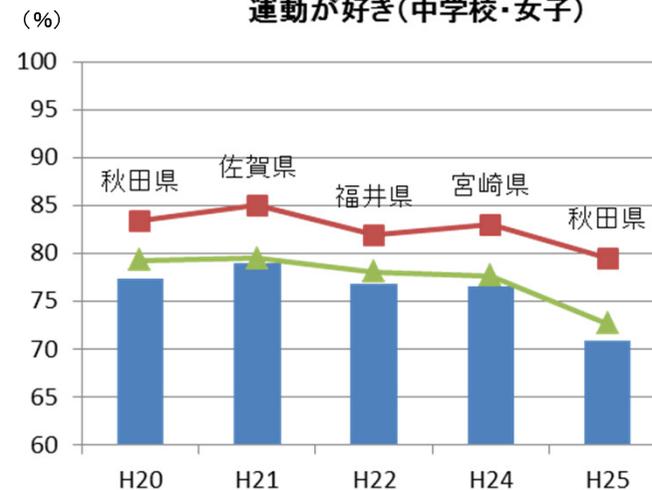
中学校2年(女子)



運動が好き(中学校・男子)

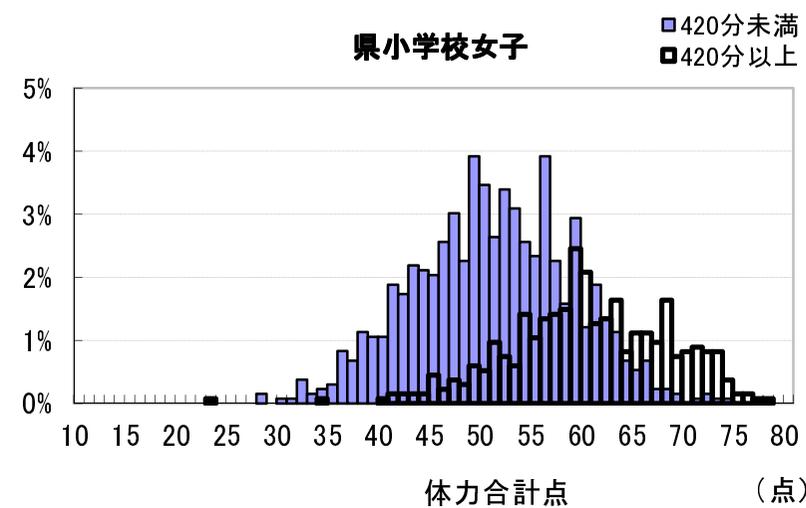
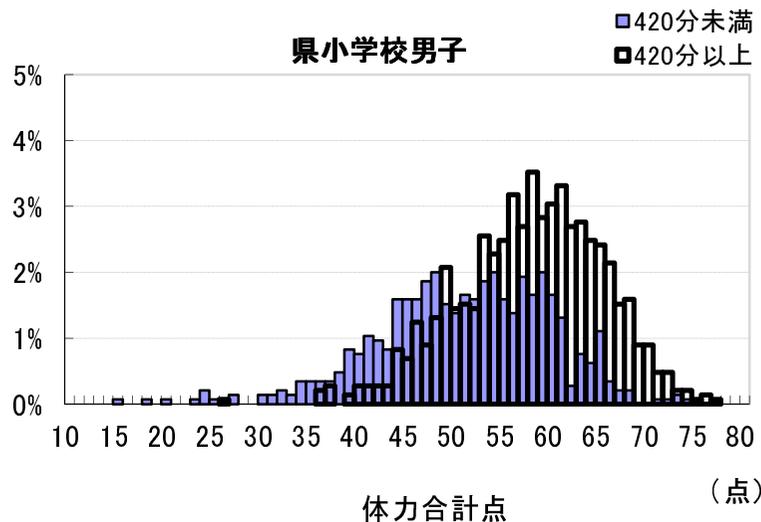
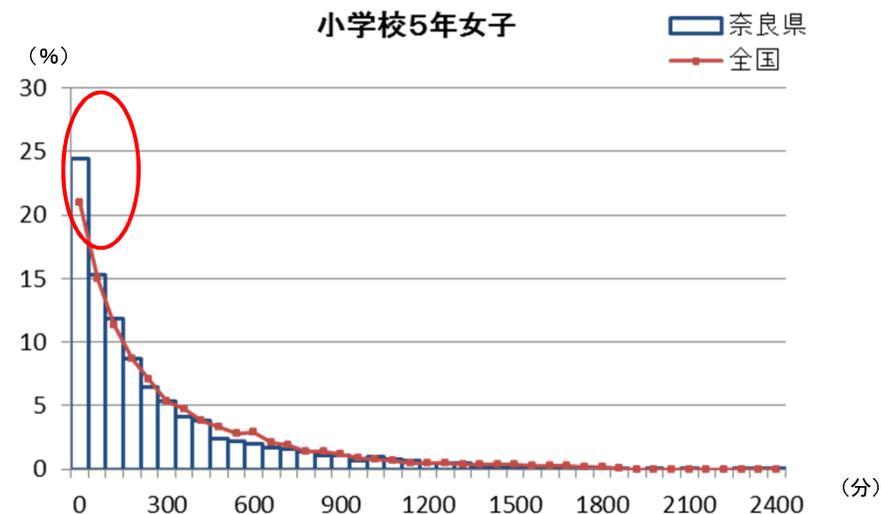
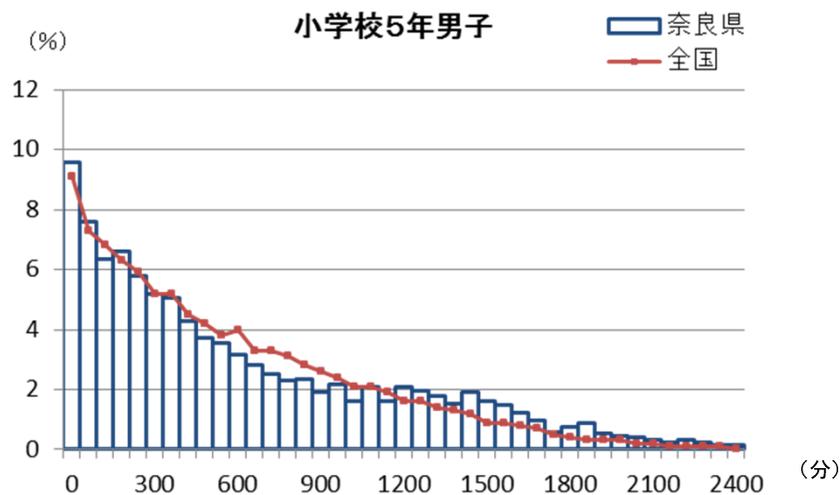


運動が好き(中学校・女子)



### 3-8 1週間の総運動時間(小学生)

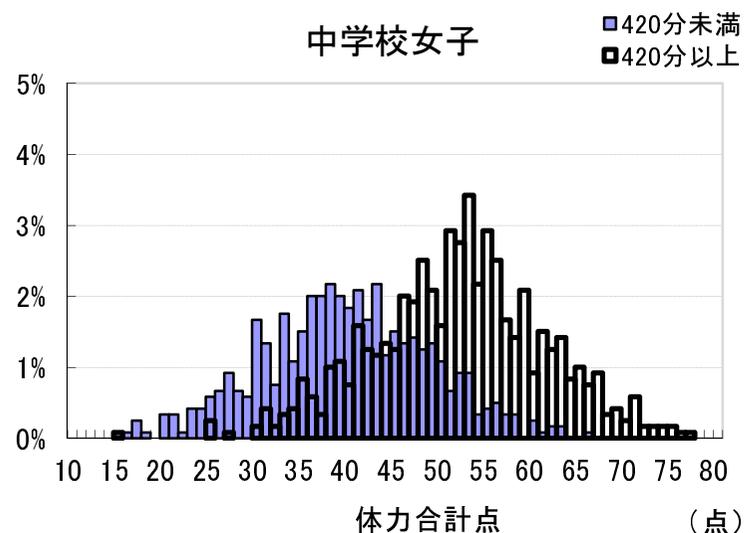
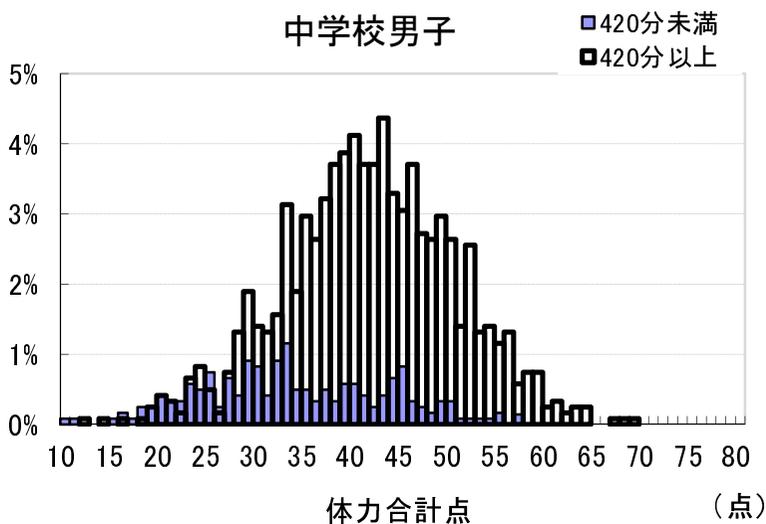
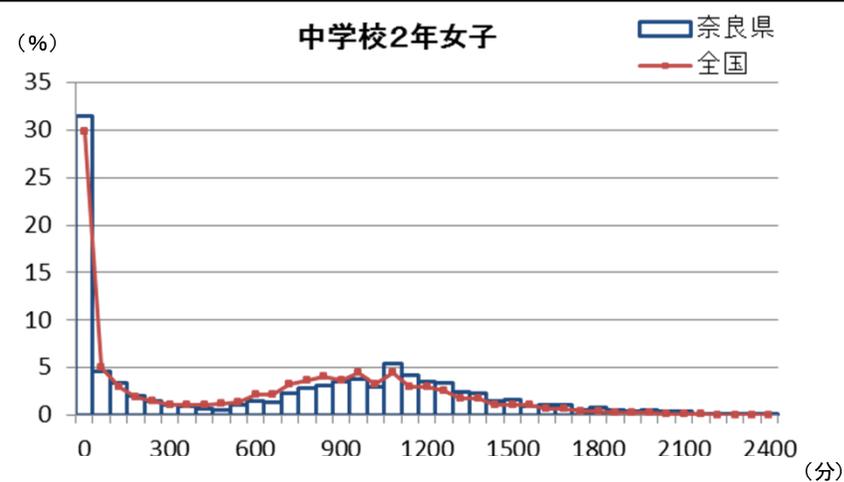
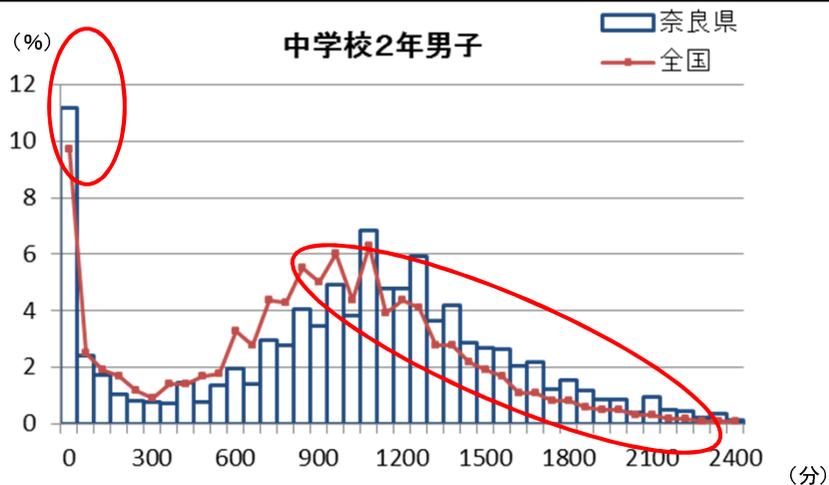
- 小学生の1週間の総運動時間の分布を全国と比較すると、女子は60分未満のほとんど運動しない層が多い。
- 男子、女子とも、1週間の総運動時間が多い(420分以上)児童の方が、体力合計点が高い。運動時間を増やすことが体力向上につながる事がうかがえる。



出典: 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)

### 3-9 1週間の総運動時間(中学生)

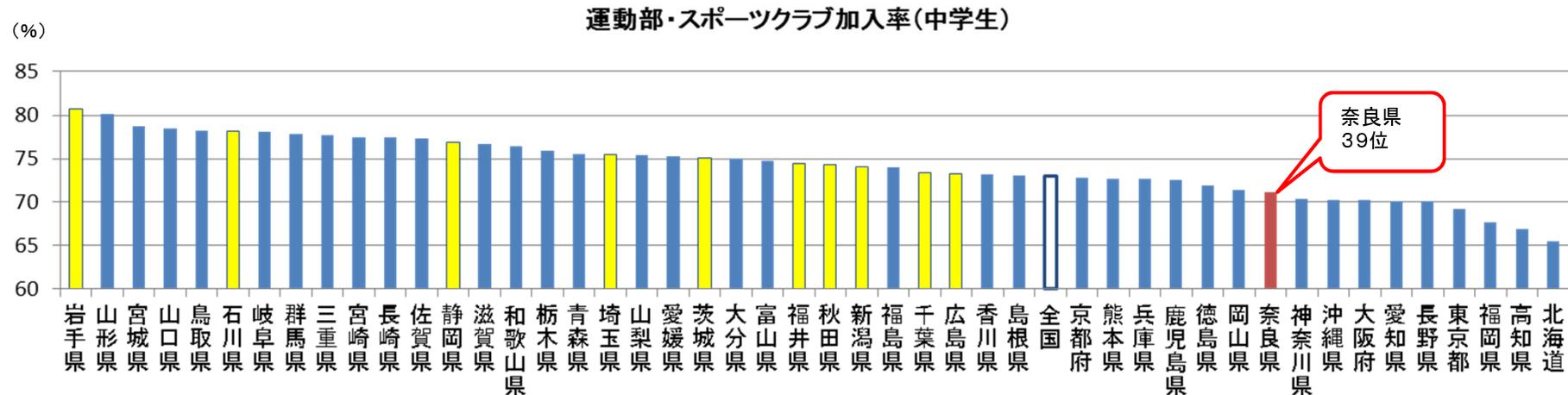
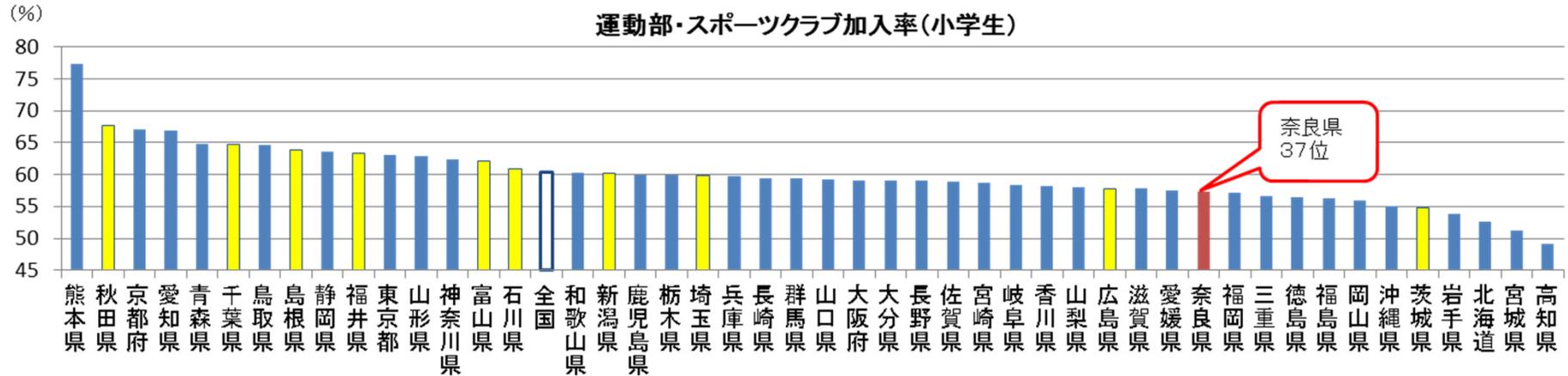
- ・中学生の1週間の総運動時間の分布を全国と比較すると、特に男子では運動する層としない層との二極化が顕著である。
- ・男子、女子とも1週間の総運動時間が多い(420分以上)生徒の方が、体力合計点が高い。運動時間を増やすことが体力向上につながることをより顕著に示している。



### 3-10 運動部・スポーツクラブの加入率と体力の関係

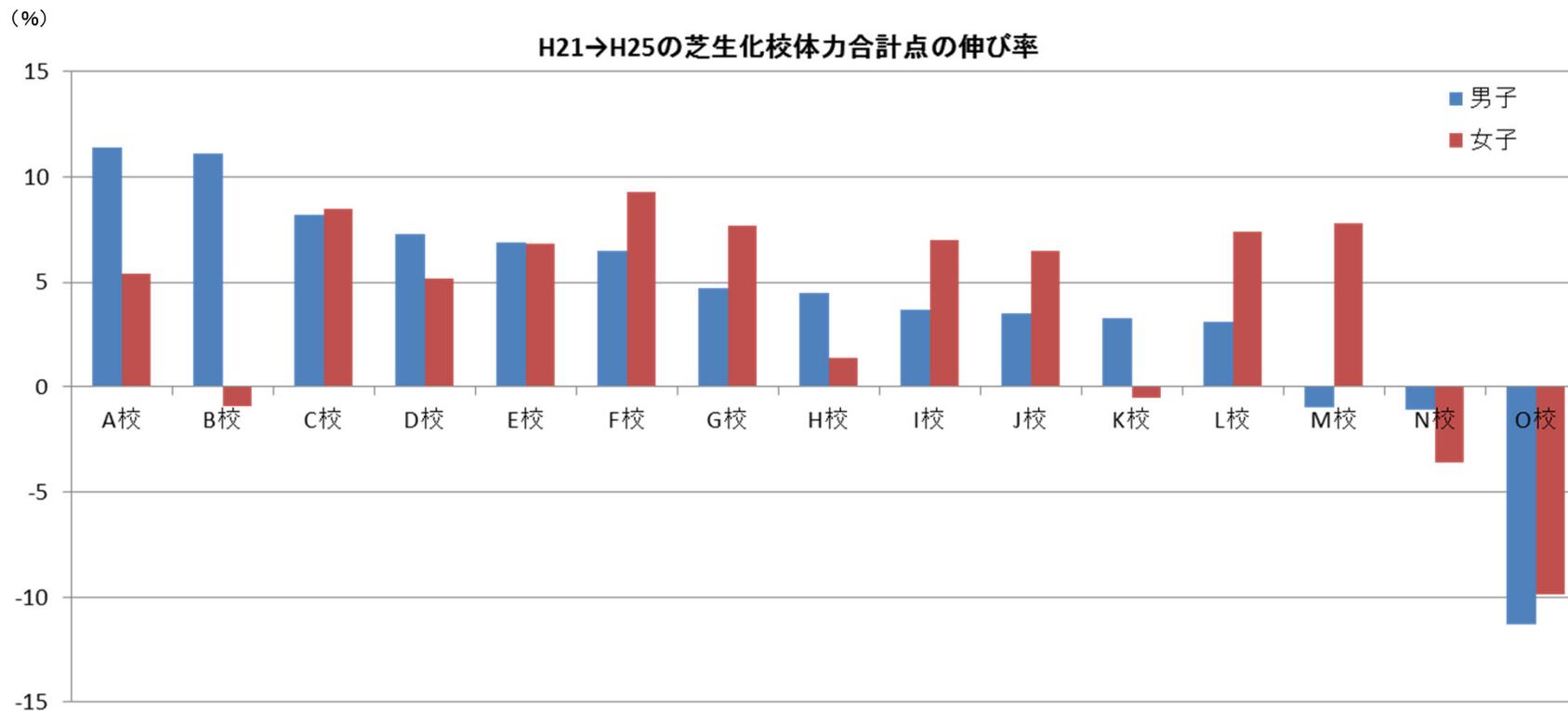
・体力テスト上位県は運動部やスポーツクラブの加入率が高い傾向にある。また、加入率の下位県の多くが体力テストの下位県である。

黄色は体力合計点が10位以内の県



### 3-11 運動場芝生化と体力の関係

- ・運動場の芝生化は、外にでる機会を増加させ、運動時間が増えることで、体力の向上に効果があるとされている。
- ・芝生化校の状況をみると、小学校15校中13校が芝生化後大きく体力合計点を伸ばしている。

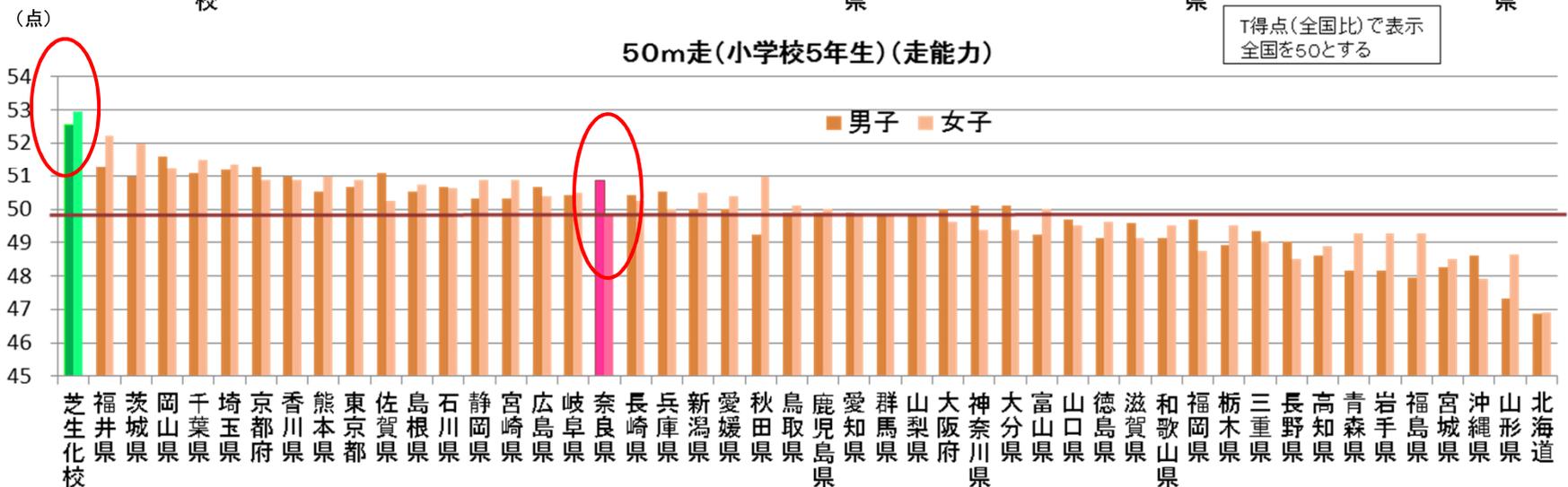
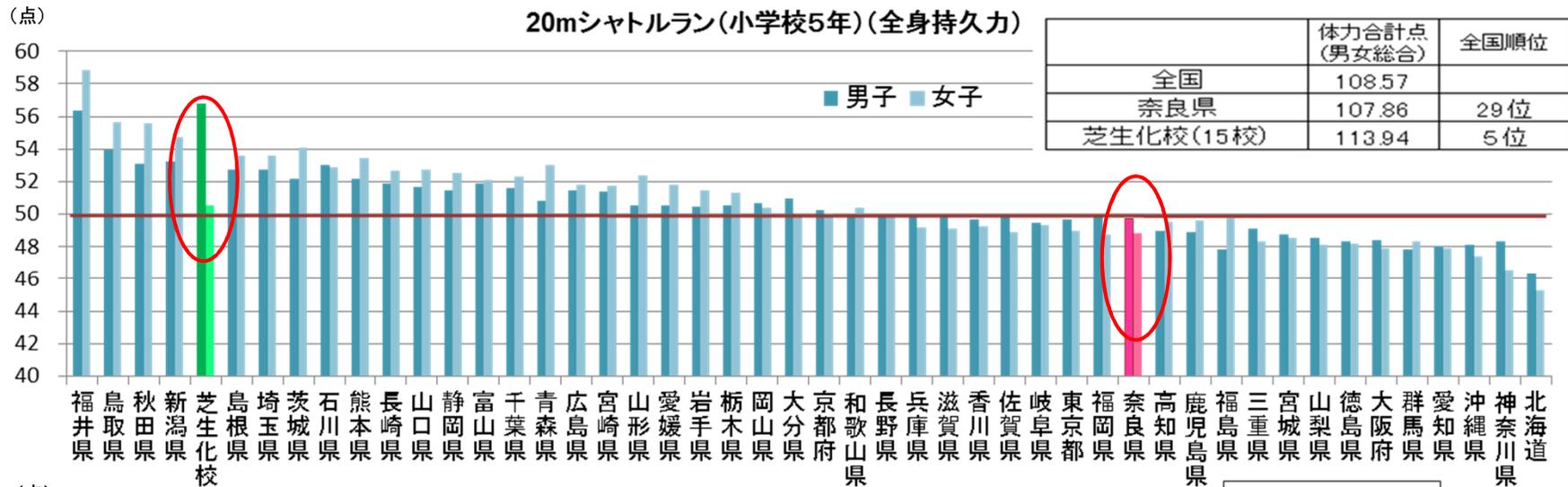


奈良県運動場芝生化実践校  
 平成21年度 小学校 9校  
 平成22年度 県立学校 5校  
 平成23年度 小学校 6校  
 合計20校

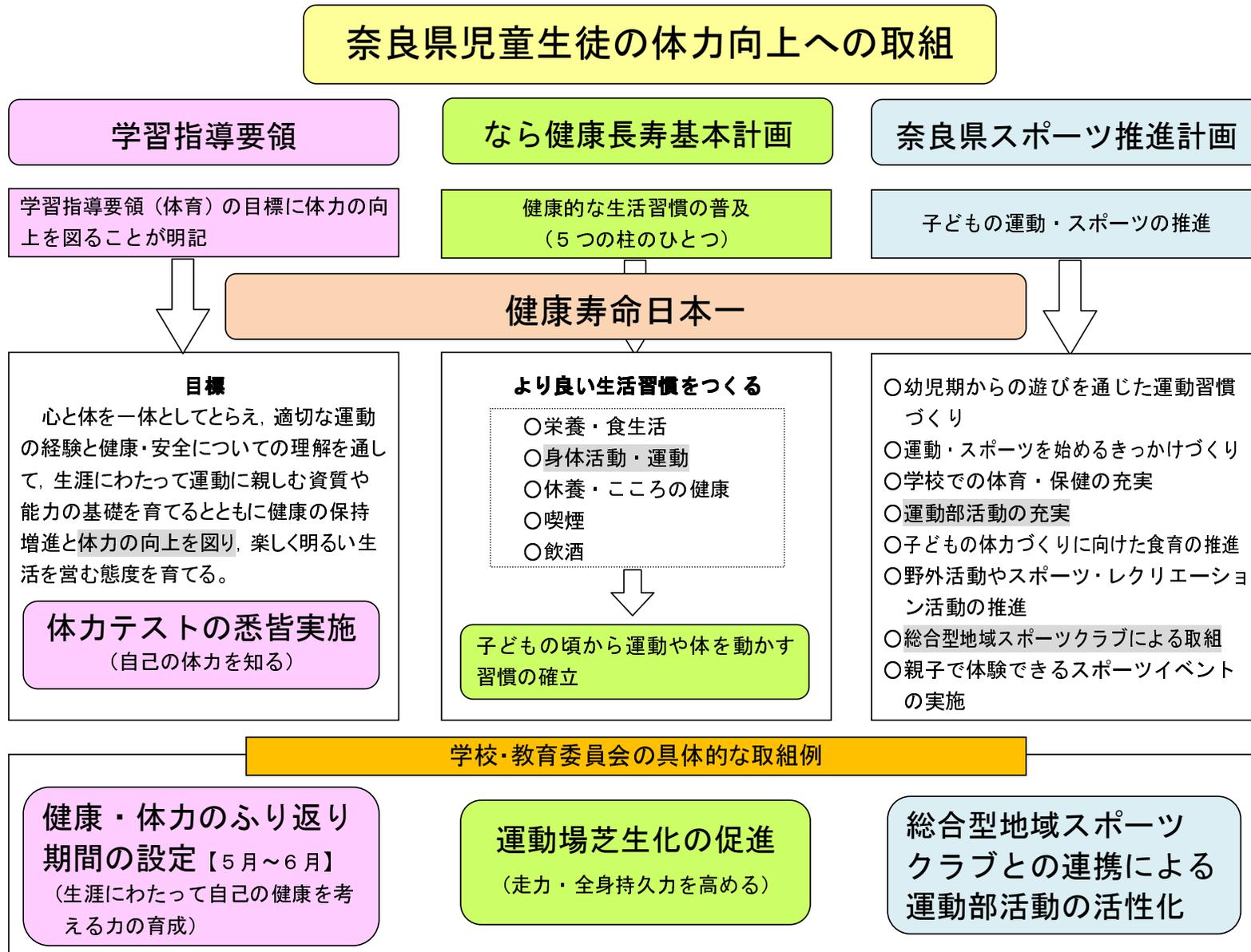


### 3-12 県内芝生化校の体力の全国比較

- ・県内芝生化小学校15校の体力合計点は、全国順位で5位になっている。
- ・芝生化校の体力の状況をみると、「20mシャトルラン」では、男子は全国1位、女子は全国平均を上回る結果になっており、「50m走」では、男子、女子とも全国1位になっている。



### 3-13 参考:体力向上に向けた県の取組



### 3-14 体力の向上に向けて

- 体力の向上を図るためには、基本的な生活習慣の確立や健康の保持増進はもとより、子どもの発達に応じた適切な運動量の確保を行うことが重要である。子どもが運動やスポーツに親しみをもって積極的に取り組むような働きかけを行うことが必要である。
- 学校の部活動やスポーツクラブは運動量を大幅に増加させ、体力向上に果たす役割は大きい。学校の部活動のより一層の魅力化を図るためには、優れた外部指導者の活用や、地域スポーツクラブと連携した活動を促進することが効果的である。
- 運動する場面をつくり出すという観点においては、運動場の芝生化は有効な手段であり、児童生徒全体の運動量を増加させ、体力の底上げが期待できる。特に、全身持久力、走能力を向上させることは、健康長寿に直接関わることから、運動場芝生化を促進する。